

モーイ親方が学校行じようによー、アタビー取ていよ、人や皆学校かいはいしがよー、自分やアタビー取ていよーアタビー取たくとう、うぬアタビーがよー、ヌブシぬ玉よー、アタビーがむる前なちよー、ヌブシぬ玉。

うり、アタビーすぐたくとう、モーイーや、ヌブシぬ玉かみとーるアタビー、玉んなかんかうちきとーてい、アタビーがヌブシぬ玉前なさーに、そーし、ブシぬ玉取やーに、口んかい、くくでーるはじやし、うち呑でーるばーてー。

「いったーがーわからんさだー」んでいやーに、くくだしがうち呑でーるばーてー。アタビーがだちようしる、自分し食てい、玉かみとーせー。

あんさくとう、アタビーたーや、散くいてい逃やー

に。

さくとう、勉強しーねー、自分や床下ぬ中をうとーてい勉強し、昼おー出じとーてい、ふらーふーじーしモーイなとーてい、アタビーすぐたい、ぬーさいし、いつペーんでいきやー、いつペーん切りやーやし、他人のーふらーんでい思とーるばーてー。

あさーに、今日ぬ試験ぬハーガーなとーていよー、黒板にやちやーし書かつとーんち、一目見れーからーわかいたんでいよー、どうくじんぶん持ちなてい、今日試験どーんでいーねー、出して来たんでいよー。

「私にん入ん」でいちゃくとう、

「いえーふらーモーイーが出て来んどー、」でい仲間が笑とーんてー、

「何書ちーが来がやー、丸書ちーがる来えーせー、」んち笑てーるばー。

何故がやーんでいねー、一番し書ちやーに、置ちきてい去いたんでいよー。

モーイ親方が学校に行つてゐる頃だが、蛙とりをして、外の人たちはみんな学校に行くが、モーイーは蛙捕りをして蛙とりをしていると、その蛙が、ヌブシの玉をね、ヌブシの玉を、蛙が持つていて、ヌブシの玉を。

その蛙を、たたくと、モーイーは、ヌブシの玉を持つてゐる蛙を、ヌブシの玉を真ん中に置いて、蛙がヌブシの玉を抱えているので、その、ヌブシの玉を取つて、口に、含んだのだが、つい飲み込んでしまったそう。

「おまえたちがわからないんだあ」と言つて含んだが、つい飲んでしまったんだ。蛙のだいてゐるのを、自分で呑でしまい、ヌブシの玉をいただいたんだよ。

それで、蛙たちは、方ばうに散つて逃げてしまったそ

うだ。

そうして、モーイーは勉強するときには床下で勉強して、昼は出て来て、馬鹿なまねをして髪も振り乱して、蛙取りやなんかしているが、とても秀れものだったそうだが、他人は馬鹿と思つていたらしいんだよ。

それで、今日は試験というとき、人には見られずに黒板には何が書かれてゐると、一目見たときからわかつたそうだよ、あまりにも知恵もちで、今日は試験だという日には、床下から出て来たそうだよ。

「私も入る」というと、

「あれえ馬鹿なモーイーが出て来たよ」と仲間が笑つたそうだよ。

「何を書きに来たのかね、丸を書きに来たんでしようね」と言つて、あざ笑つたらしいんだ。

何故かという、一番に書いて、置いて出て行つたそうだよ。

あさーに、

「モーイーが何書ち去ちやがやー、丸る書ち去ちやがやー、」んち笑いたんでいどー。

やしがつたーまた、モーイーが書ち去ていからんなー、書きーうさんたんでいしが、調べたくとう、うり一番科学あたていよー。

あんしうつたー、モーイーが住まーとーたる家、はに壊ちやくとうよー、うんたきぬ、うつさむる、字なとーたんでい、床下むる字なとーたんでい。

隠り武士なてい、親ぬん知らんたんでい。

そして、

「モーイーは何を書いて行つたのかね、丸を書いて行つたのかね」とあざ笑つたそうだよ。

だけど仲間たちはまた、モーイーが書いて出て行つてからも、書けなかつたそうだが、調べると、そのモーイーが一番できがよかつたそうだよ。

そして、そのモーイーの住んでいた家には、家を壊したとき、これくらい、ぜんぶ、字が書かれていたそうだよ、床下はぜんぶ字でいっぱいだったそうだよ。

隠れ武士になつて、親も知らなかつたそうだよ。

字小波蔵 伊敷カミ